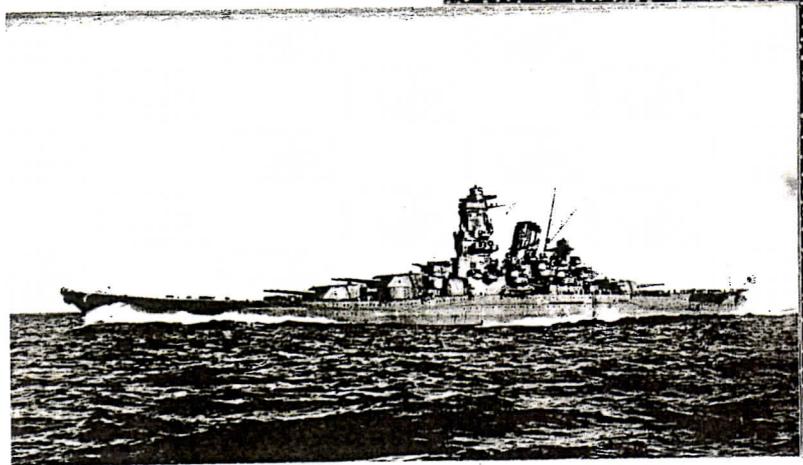


# 手紙



昭和二十年四月七日戦艦大和に於て  
戦死なされた宇田川秋三郎殿

東京市

宇田川新太郎様



暫らくは学業音断り

たの晴日者此打も

中雨親は免由一疏

お書もあはれ益々健康

なれお養育の志

家系致し居りませ

私を相愛りす元氣業で

家務日勵んで居りよき  
から何年申女心下さ  
此つも家から便れふい付  
は表つた事はふいとは息  
つては居るがたやうはは家  
様子も知らせて下さ  
我地七兄から今よは  
便りが有りよか

先日町山七兄さんから  
便りと取りあつたが  
先きんも元氣なやう  
居るやうです

家二居る頃はあんふ調子  
であつたがやつはり家を

別れを居る身身  
の者が懐しいを見えよ  
おも早事速事  
まーたでは時  
は自ら愛する

頃者

秋之節

早之川

織  
吳海軍工廠内  
有専事務所

第十號

宇田川林三郎

東京市

宇田川新太郎様



検閲済



忍上

仰西親存様が御一

同仰書りましくお

念へしこの書は

宛先給うる方にお

お返しに陰で御返

年元氣帯て働け

所り申すそのら何年

ゆ要心下き以

付きあては今回

種々たる状より望

不要物不を致荒送

致しやむした

宜致適當に也

呈致して下さる

尚小包に申に可

尚小包は中に通  
帳二通同封致  
しから

お母様の方も元  
麦更しと小使にて  
もしと下さし同封

した書蹟は務の  
帳にかいたのぞく

中笑覧下さし

では年深き父母様

いふ事  
では年深き父母様  
には呉々々  
きくに  
愛

読者

社

印文之様

品海軍工廠  
第十二號  
字分  
社印

東京市

宇田川新太郎様



前畧

此便り有難く拝見致しよした

とび行くと大英帝國が東亞侵略の牙城を界防の要城  
シガポールも我が忠烈なる同胞の尊き血と肉とに依り成  
鉄輝と軍艦旗のものとをさめ誠心感激と感謝の念にた  
えまをん かつき内いのは元氣で此に聖戦に參加され  
事でもせよう 其れに引りかえ私は幸か不幸か凡 洲の角  
に我報を聞く度に胸の血を躍る武者振いと致し望みの  
叶はふいのを残念に思ひたりしを而し前線に於て吾が同胞が  
思ふ存分戦いするも吾々又鏖後に鏖石の備へずればこそと  
考へ吾々も又銃後にも吾々を固くしなければはふらふいと思ふ  
今私達も任務致し居る事は又殊又それがあつたね  
にふつと云ふ事書くと事は許さずして居りません  
イカリ

今回陸軍から人の定に於て中奉の致し事も吾々も  
してはなんら思ふこと何れ座居るも人陸軍に於ても過  
こさずの長が又今度の大東亞戦に於ても思ふ存分動  
今更思ひ残す事は有りません 今度又又戦つた大佐  
と果るべくと一息其の任に奮勵致し再び前線に  
出て沖の夕日に銃を振る敵のラストを見つめて行く  
時来たか。さうこそ此の力のかりに戦い具とく結意で  
皆さんにも自愛あつたに益々銃後を務めにも盡力して北  
こしを望むもの有りません

それゆゑの海を渡るから申送つた事にもおは道  
はまが致しお礼をいしお禮をいしお禮をいし  
さう様お願致しはすでも尚家から後送つた

冬物は二月七日終午致しうすたが揚ちちをかふものほ  
今どに着目すまを人の其のうらに着之事と思ひまをては  
皆々様中元氣を

宇田川新太郎様

相見  
礼印

長崎市飽浦  
海軍監督官事務所  
有馬大佐事務所第十四號室

宇田川秋三郎



東京都

郵便はがき

宇田川新太郎様

軍事郵便

横濱

局長宛

軍部 天城

宇田川新太郎

前略

此の後中健勝多し行兩航けりあやう統  
益々抗後我より太易斗のりしと意守致  
して兵り多す小生もお陰が至極頑健  
て本年より道進ハ行々新ります故  
中安心望い時折柄程々御承仕の  
こととせしお祈り大印又お務め不  
さい此の表紙に勤務中とす

宇田川



東京市

きがは便郵

宇田川新太郎様



軍事郵便

検閲済 (赤川)

宇田川新太郎

宇田川新太郎

前畧

其後仰一統様お褒りもふくく益々  
仰健候までお褒り此奉りも甚幸  
致し候りませぬ。私も於者等服務致し  
候りませぬ。故仰安心下さい  
候りませぬ。八月申向吹に宇田川が  
どくはずですから着きませぬ。た  
らお手致  
下ら一枚此廻送して残りは保管し  
て置いて下さい。先は右仰致ませ  
ぬ。此致矣。此仰候。此致矣。

東京都

宇田川新太郎様

郵便便がき



検閲済

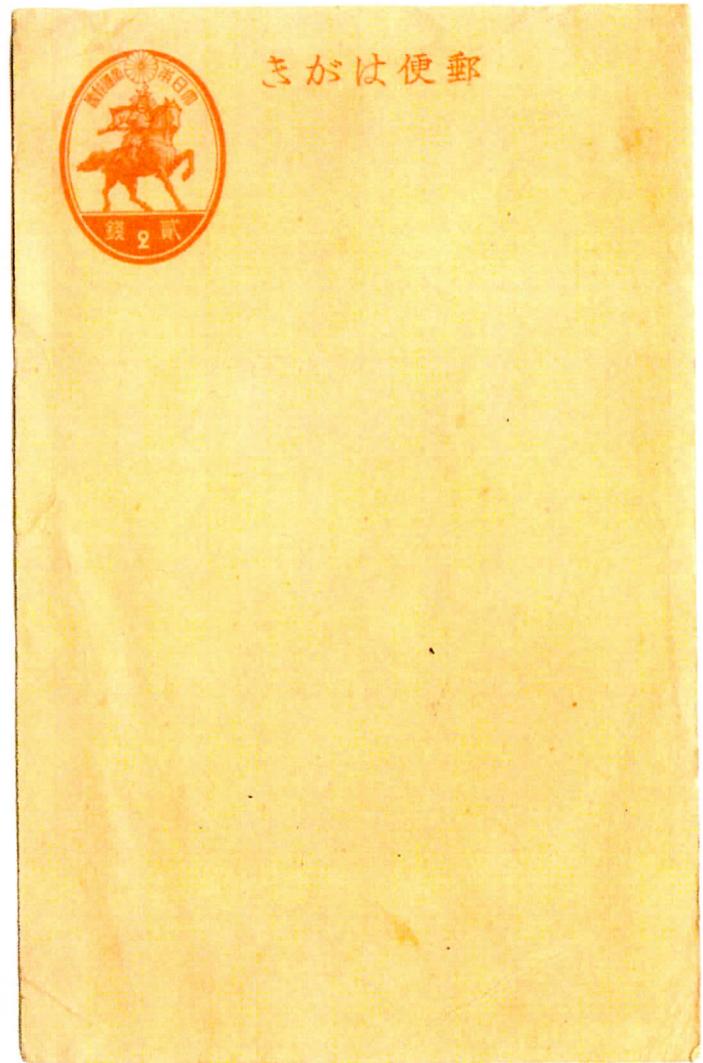
航海学校卒業生  
宇田川新太郎

前書

暑氣厳し折から此日柄お衰りな  
益々守健勝こそお養育のつとめと思つた  
私も至極元氣で軍務に勤んで居り  
ます故何卒仰安心下さい  
父がね々おやられまいたが折悪く一  
舎人さまでいたが午後二十日土曜日  
の午後五時頃迄は来て居ります  
らばお待たせして居ります



前略 澎手紙有難く拝見致しは皆極も無事との由  
法花に申上りまはし私も無事毎日戦術訓練を受ふ  
りまはし下さい。





きがは便郵

軍事郵便

軍形武藏

宇田川北三郎

宇田川常一様へ

東京部

拝放  
 其の後此の様や整りなく申此健  
 王や美の事と存じませ  
 お陰様で私も相懸らず元氣で  
 職務致して居りますか  
 申安心下さい  
 時節柄此の様申さる程を  
 幸々

封

軍兵

武

字田川部

尔市

軍田川部

軍事郵便



